

『ありのままに』 寸評

- ・二声インヴェンションの試み第2弾ですね
- ・チェロにバスの機能&充実したメロディを与える努力がうかがわれる
- ・m.13-14の ff に向かってドンドン確信を強めていくダイナミック
- ・m.5-8 平行調へ転調し、m.9に借用和音と色彩の変化
- ・特にm.1-4のメロディがよくまとまって光っている

完成度をさらに上げるために

- ・対位法を磨き上げるの簡単ではない
- ・旋律・対旋律・その関係性と、同時に注目すべき音が垂直方向と水平方向に爆発的に増えるため
- ・順次進行で対旋律を模索しはじめると、どこまでも終わりがなくなつてつい音符を詰め込みすぎてしまう
- ・緩急をつけること、まずはこれを意識してみよう
- ・m.14-16の参考例



- ・バスが小節線をまたいで同音反復するのは (ex. m.4 b.4-m.5 b.1)
あまりよくない

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

よくがんばりました。

持摩 勉